行事開催報告

2007年度雪氷防災研究講演会－安全な冬の交通を目指して－

防災科研は、2007年10月24日に青森市において雪氷防災研究講演会を開催しました。同講演会は、最近の研究成果を広く知っていただき、雪国の防災に寄与すべく毎年開催しているものです。今回は、積雪地における冬期道路交通の安全と防災をテーマとして開催しました。

最初に、住民の立場から、NPO法人青い森空間創造女性会議の北村真夕美理事長が、道路管理者と研究機関が連携し吹雪や路面状態の予測情報の提供を充実してほしい、と意見を述べました。弘前大学の力石國男教授は、青森の気象・積雪データの解析から、冬期気温は100年で約1℃上昇したが最大積雪深に温暖化の影響は見られないことを示しました。

青森市及び国土交通省の道路管理担当者からは、GPSとインターネットを用いた道路除雪作業の効率化や、地中熱等の自然エネルギーを用いた歩道除雪の取り組みが紹介されました。

最後に、当研究所のプロジェクト研究の一部として進めている、路面状態及び吹雪の予測研究の成果について、二件の発表を行いました。187人の参加があり、熱心な聴講と意見交換がなされました。（プログラム等の詳細はhttp://www.bosai.go.jp/seppyo/でご覧いただけます。）

行事開催報告

シンポジウム「災害リスクガバナンスで高める地域防災力」

12月7日に東京国際フォーラムにおいて開催した表記シンポジウムは、防災科研が目指す「災害に強い社会」の具体的な姿を明らかにすることを目的として実施されました。

まず長坂主任研究員、臼田・永松両研究員らによる災害リスクガバナンス研究についての講演の後、実務の方々を交えたパネルディスカッションを実施しました。柏崎市北条地区コミュニティー振興協議会会長の江尻東磨氏からは、中越地震および中越沖地震の経験にもとづく包括的なコミュニティー活動の事例を、静岡県島田市情報政策課の南條隆彦氏からはeコミュニティーしまだを通じた行政や市民の防災活動の向上事例を、そしてつくば市社会福祉協議会の河原井猛氏からは、eコミュニティーつくばを通じ、様々な団体と連携しながら防災訓練の実施にこぎつけた事例をご紹介いただきました。

これらの事例は多様な主体の対話による水平的な協働（災害リスクガバナンス）を実践している事例として紹介されたものですが、いずれも参加者の高い関心を集めており、こうした地域防災を推進する上で今後の防災科研の研究に期待するといった声も頂きました。

100名を越える参加者でほぼ満員の会場